

5390

東証 2 部

宇部マテリアルズ株式会社

「環境」、「安全」、「品質」を3つの柱に、自然との共存を目指して

地球の恵みを未来に活かす—日本国内で豊富に産出される良質な石灰石を原料とした石灰関連製品のトップメーカーであるとともに、海水中に 2000ppm 含有するマグネシウム分を原料としたマグネシアクリンカー（耐火物原料）で国内唯一のメーカー、また世界最大規模の生産能力を持つ宇部マテリアルズ株式会社（以下、宇部マテリアルズ、または当社）。地球にやさしい企業として事業を展開する同社の事業概要、取組みについてご案内いたします。

沿革と主要事業の概要

宇部マテリアルズは 1997 年 4 月、株式会社カルシードと宇部化学工業株式会社とが合併し、設立された。それまで両社は、同じ宇部興産グループ(4208 東証 1 部)にあって、石灰の供給側と、原材料として石灰を購入し、海水を反応させてマグネシアを生産するユーザー側の関係にあったが、合併により生産プロセスを一体化、カルシア(石灰)、マグネシア生産のための大規模な一貫設備を保有するに至った。現在、当社の生産拠点としては、カルシア生産で本拠地の山口県に美祿工場(生石灰 9.6 万トン/月、他)、千葉県に千葉工場(生石灰 4.5 万トン/月、他)、岩手県一関市に子会社の(株)東北鉄興社(生石灰 0.88 万トン/月、他)の 3 拠点がある。またマグネシア生産では、山口県に宇部工場(水酸化マグネシウムスラリー、以下水マグスラリー 2.12 万トン/月、他)を有する。

昨年宇部マテリアルズは、11/3 期を起点とする 3 カ年経営計画“NEW ネクストステージ”を発表した。この中で、「環境、エネルギー」と「スピード」をキーワードに、既存のカルシア、マグネシア事業を基盤事業と位置づけ、基盤事業の競争力強化と性能向上や用途開発による新製品の開発促進を重要施策に掲げた。

基盤事業の一つ、カルシア関連事業の主要製品である生石灰(酸化カルシウム)は、石灰石を焼成して製造するが、主に、鉄鋼用の高炉で銑鉄を作る際、鉄鉱石中の不純物を取り除くための焼結原料として使われている。宇部マテリアルズは現在、鉄鋼分野の専門メーカーとして 17%強の市場シェアを有する(2010 年実績; 当社試算)。カルシア関連の基盤事業にはこのほか、消石灰(水酸化カルシウム: 生石灰に加水して生成)、タンカル(炭酸カルシウム: 石灰石を粉砕したもの)といった製品がある。

もう一つの基盤事業、マグネシア関連事業の主要製品である合成マグネシアクリンカーは、製鋼炉に使用される耐火煉瓦の原料として使われている。これは、海水と生石灰との反応で生成した水酸化マグネシウムを精製・濃縮、脱水、乾燥、仮焼、成型し、1,800℃以上の高温で焼成して作られる。99.5%の高純度製品を供給する宇部マテリアルズは、国内 100%シェアのメーカーであるとともに、グローバル市場においても世界の生産能力を有する(2011 年 3 月現在、年間 25 万トン)。ちなみに、マグネシアのグローバル生産は現在

このメモは投資判断の参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。このメモに記載されている内容は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性・完全性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容・意見は当該説明会時、ならびに/あるいは取材時における判断であり、今後、事前の連絡なしに変更されることもあります。投資に際しての最終決定は投資家の皆さまご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。

500-600万トンと推定され、うち50%を中国産天然マグネシアが占めている。このほか、水酸化マグネシウム(水マグ：海水と生石灰の反応により生成)と酸化マグネシウム(水酸化マグネシウムを精製・濃縮し、脱水、仮焼したもの)がある。

これら基盤事業においては、既存製品のコスト競争力強化を図るとともに、性能アップや用途開発による製品の高付加価値化を強化している。また、自然にやさしい素材の特性を活かし、環境分野での用途開発も推進している。

加えて、新製品開発による成長を目指す事業分野として、ファイン・研究開発事業がある。宇部マテリアルズの強みである基礎要素技術に、超微粒子を合成するために独自開発した気相技術、液相反応による分散性を活用した超高純度化技術、超微粒子を用いた複合組成物を固相反応により均一に合成する技術があり、これらを用いて現在、様々な特性の高機能製品を上市している。また、今後の研究開発の方向性として、“DEPS”と呼ばれる戦略分野を謳っている。“DEPS”とは、ディスプレイ(Display)、エネルギー(Energy)、蛍光体(Phosphor)、半導体(Semiconductor)の4分野を指し、専任のスペシャリストを配属して、マーケット直結型研究開発体制の構築に注力している。このほか、親会社、宇部興産との協業を通じた新製品開発・市場開拓も進められている。

2011年3月期 連結決算概要

前述のとおり、宇部マテリアルズの基盤事業は、マグネシア、カルシア事業とも、鉄鋼を中心とした生産活動に大きく影響を受ける。11/3期の粗鋼生産は約900万トン/月を維持し、通期で1.1億トンの高水準にあった。このため、カルシア事業の工場は、いずれも高稼働率を維持できた。マグネシア事業においても、耐火煉瓦用マグネシアクリンカーに対する需要が拡大したことに加え、注力中の非耐火物分野や環境分野のマグネシア製品の出荷が旺盛だった。

この結果、【表1】にあるとおり、売上高は前期比13.2%の増収。営業利益、経常利益については、1997年の合併来の最高益を達成した。また、2月4日付予想に対しても、売上高で550百万円増、営業利益で338百万円増、経常利益で360百万円増と上回った。当期の大幅な増益の背景には、全社的な稼働率上昇による生産性の大幅改善や原燃料費上昇を補完する値上げ、さらに安価な燃料への代替などの効果がある。ただし、当期純利益については、経年劣化した設備の廃棄損などを計上したため、営業利益、経常利益に比べ、伸び率が鈍化した。

当期は、前期に比べ設備投資が拡大したが、これは、例年行っている維持更新投資に加え、水マグ生産用工業水の海底配管を更新したこと、また長年の懸案であった社内システム統合のための新規投資を行ったことによる。

このメモは投資判断の参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。このメモに記載されている内容は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性・完全性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容・意見は当該説明会時、ならびに/あるいは取材時における判断であり、今後、事前の連絡なしに変更されることもあります。投資に際しての最終決定は投資家の皆さまご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。

【表1】2011年3月期 連結業績の概要

| (百万円) | 10/3期 | | 11/3期 | | 前期比 | |
|-------|--------|--------|--------|--------|-------|-------|
| | | 構成比 | | 構成比 | 増減額 | 増減率 |
| 売上高 | 37,577 | 100.0% | 42,550 | 100.0% | 4,973 | 13.2% |
| 売上総利益 | 9,083 | 24.2% | 11,151 | 26.2% | 2,068 | 22.8% |
| 販売管理費 | 7,223 | 19.2% | 7,913 | 18.6% | 690 | 9.6% |
| 営業利益 | 1,859 | 4.9% | 3,238 | 7.6% | 1,379 | 74.1% |
| 経常利益 | 1,956 | 5.2% | 3,270 | 7.7% | 1,314 | 67.1% |
| 当期純利益 | 1,084 | 2.9% | 1,667 | 3.9% | 583 | 53.8% |
| 研究開発費 | 599 | 1.6% | 585 | 1.4% | -14 | -2.3% |
| 設備投資額 | 1,682 | - | 2,492 | - | 810 | 48.2% |
| 減価償却費 | 2,171 | - | 2,196 | - | 25 | 1.2% |

注：表はいずれも宇部マテリアルズ(株)の開示データをもとに(株)トリアスにて作成

セグメント別実績の概要
マグネシア事業

基盤事業である耐火物向け合成マグネシアクリンカーは、従来安価な中国産天然マグネシアクリンカーと競合してきた。耐火物メーカーは、多少品質が悪くても中国産輸入品を採用してきた経緯がある。ところが昨今、中国政府が資源の困り込み策としてマグネシアクリンカーの輸出を制限。景気循環的な需要の回復も伴い、市場における需給がタイトになっている。そのような環境下、中国産天然マグネシアの単価が上昇し、宇部マテリアルズ製品へのシフトが加速している。加えて、従来の耐火物用途に比べ、より収益性の高い用途へのシフトも進んでいる。

1990年代、宇部マテリアルズの合成マグネシアの売上構成は耐火物用途が全体の80%以上だった。その後、耐火物用途の比重が減少し、代わって排煙脱硫用ボイラー中和剤として、水マグスラリー(どろどろした粥状のもの)の比重が拡大した。2000年代に入り、新たにケミカル分野での用途開発が進み、ガラス、樹脂、医薬、水・土壌処理等の環境用途に販売が伸長した。このような事業展開を通じ、2000年度実績では、耐火物用途が56%にまで減少。一方、排煙脱硫用スラリーが28%、ケミカル用途が16%に拡大した。12/3期予想では、耐火物用途は37%、排煙脱硫用スラリーが41%、ケミカル用途が22%と、より付加価値の高い製品群の売上が拡大する見通しだ。

特にガラス用途では、旭硝子を中心とする国内大手ガラスメーカーや海外大手メーカーの売上比率が上昇してきている。当社のマグネシアは、リーチ規制(重金属を含まない再生可能な素材の利用を目的とする国際規制)に適合した素材であることに加え、ガラス製造時の粘度を上げることができるため、平面ディスプレイ用の非常に薄いガラスを製造する際に使われている。マグネシアを使用することで、より透明なガラスが作れることから、太陽光パネルの基板や表面ガラス、最近ではIHクッキングヒーターの表面ガラスの製造にもマグネシアが使われている。

このほか、半導体デバイスの小型化、高集積化、動作の高速化などに伴い、回路から生じる熱対策の為、放熱性の高い封止材樹脂が求められており、当該用途においても、当社マグネシアの早期実用化に向けて

このメモは投資判断の参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。このメモに記載されている内容は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性・完全性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容・意見は当該説明会時、ならびに/あるいは取材時における判断であり、今後、事前の連絡なしに変更されることもあります。投資に際しての最終決定は投資家の皆さまご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。

の取組みが進められている。また、医薬用や環境保全用などの新用途開発も積極的に行われている。

カルシア事業

カルシア事業は、鉄鋼粗鋼生産を中心としたマクロの生産活動の影響をより大きく受ける。前述のとおり、リーマン・ショック後の回復を受け、11/3期は生石灰、消石灰を中心に、前期比販売が大きく増加した。また消石灰は、口蹄疫ならびに鳥インフルエンザの防疫用緊急対策向けに出荷が伸長した。マグネシア事業に比べ、顧客企業の内訳に大きな変化はないが、第4四半期より、海外大手ガラスメーカー向け特殊ガラス用途に、カルシア製品が動き始めた。

ファイン事業

ファイン事業の主力製品に、積層セラミックコンデンサー(MLCC)用に使われる超高純度炭酸カルシウム(CS)関連がある。特に、スマートフォンやiPhone, iPadといった高機能携帯機器には、従来の携帯電話の1.5倍程度のMLCCが使われており、宇部マテリアルズのCS関連製品売上も継続的に伸長している。

もう一つの主要製品で、プラズマTVに使われる気相法マグネシアについても、薄型テレビへの代替が進む中、使用の絶対量が増えている。このほか、塩基性硫酸マグネシウム無機繊維であるモスハイジについては、体液中に溶けやすく、万一肺内に吸入されても容易に溶解し残留しないという性質を持つことから、安全性の高い樹脂用フィラー(補強材や難燃材)として、自動車用途に出荷が拡大している。

●【表2】2011年3月期 セグメント別主要製品販売実績

| (百万円) | 10/3期 | | 11/3期 | | 前期比 | |
|-------------------|---------------|--------------|---------------|--------------|-------|--------|
| | 金額 | 構成比 | 金額 | 構成比 | 増減額 | 増減率 |
| マグネシア事業 | 13,877 | 36.9% | 15,638 | 36.8% | 1,761 | 12.7% |
| マグネシアクリンカー | 6,353 | 45.8% | 7,667 | 49.0% | 1,314 | 20.7% |
| 水酸化マグネシウム | 6,879 | 49.6% | 7,354 | 47.0% | 475 | 6.9% |
| その他 | 644 | 4.6% | 617 | 3.9% | -27 | -4.2% |
| カルシア事業 | 19,863 | 52.9% | 22,741 | 53.4% | 2,878 | 14.5% |
| 生石灰 | 12,859 | 64.7% | 15,339 | 67.5% | 2,480 | 19.3% |
| 消石灰 | 2,565 | 12.9% | 2,941 | 12.9% | 376 | 14.7% |
| タンカル | 1,001 | 5.0% | 995 | 4.4% | -6 | -0.6% |
| 土質固化材 | 1,040 | 5.2% | 944 | 4.2% | -96 | -9.2% |
| 製鋼用脱硫剤 | 386 | 1.9% | 530 | 2.3% | 144 | 37.3% |
| その他 | 1,818 | 9.2% | 1,827 | 8.0% | 9 | 0.5% |
| 東北鉄興社 | 190 | 1.0% | 165 | 0.7% | -25 | -13.2% |
| ファインその他事業 | 3,186 | 8.5% | 3,489 | 8.2% | 303 | 9.5% |
| CS(超高純度炭酸カルシウム)関連 | 534 | 1.4% | 659 | 1.5% | 125 | 23.4% |
| 気相法マグネシア | 1,049 | 2.8% | 1,161 | 2.7% | 112 | 10.7% |
| モスハイジ | 373 | 1.0% | 461 | 1.1% | 88 | 23.6% |
| その他 | 616 | 1.6% | 647 | 1.5% | 31 | 5.0% |
| 生活関連用品 | 612 | 1.6% | 561 | 1.3% | -51 | -8.3% |
| その他の事業(貨物) | 650 | 1.7% | 681 | 1.6% | 31 | 4.8% |

このメモは投資判断の参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。このメモに記載されている内容は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性・完全性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容・意見は当該説明会時、ならびに/あるいは取材時における判断であり、今後、事前の連絡なしに変更されることもあります。投資に際しての最終決定は投資家の皆さまご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。

2012年3月期 連結業績予想

今期は増収にかかわらず、営業利益以下が前期比大きく減少する予想となっている。この予想には、進行する燃料価格の大幅な高騰が織り込まれている。宇部マテリアルズでは、固形物のコークスや無煙炭など、原料炭価格にリンクする燃料を多く使っているが、足元、石油コークス、無煙炭の価格が著しく上昇しており、利益に与える影響が大きいと想定している。

●【表3】2012年3月期 連結業績予想の概要

| (百万円) | 11/3期 | | 12/3期(予想) | | 前期比 | |
|--------------|---------------|---------------|---------------|---------------|--------------|---------------|
| | | 構成比 | | 構成比 | 増減額 | 増減率 |
| 売上高 | 42,550 | 100.0% | 43,700 | 100.0% | 1,150 | 2.7% |
| 売上総利益 | 11,151 | 26.2% | 11,220 | 25.7% | 69 | 0.6% |
| 販売管理費 | 7,913 | 18.6% | 8,670 | 19.8% | 757 | 9.6% |
| 営業利益 | 3,238 | 7.6% | 2,550 | 5.8% | -688 | -21.3% |
| 経常利益 | 3,270 | 7.7% | 2,540 | 5.8% | -730 | -22.3% |
| 当期純利益 | 1,667 | 3.9% | 1,430 | 3.3% | -237 | -14.3% |
| 研究開発費 | 585 | 1.4% | 620 | 1.4% | 35 | 6.0% |
| 設備投資額 | 2,492 | - | 2,150 | - | -342 | -13.7% |
| 減価償却費 | 2,196 | - | 2,320 | - | 124 | 5.6% |

設備投資については、システム関連投資が一巡することから、前期比投資額は減少する。ただし、震災後の被災地からの応援出荷要請や中国情勢などに鑑み、マグネシア事業の水マグスラリーに関し、更なる増産体制の構築が必須と判断し、増産投資を行う。この結果、現行の生産能力25万トン/年が、27万トン/年に拡大する。また、ファイン事業において、MLCC用CS関連の生産能力増強、モスハイジの設備増強などを計画している。

セグメント別主要製品販売予想については、マグネシア事業につき、成長分野のケミカル用途向けに万全な生産体制を整備する。一方、震災後、在庫が逼迫した局面で販売が拡大していることから、一部出荷を制限する状況が出ている。業績予想には、増産設備の早期稼働を一部織り込んではいないものの、基本的に慎重な見通しを織り込んだとのこと。カルシア事業については、主要製品の販売数量は伸びるが、燃料価格の上昇で利益は減少すると予想している。ファイン事業については、MLCC用CS関連の販売増や半導体製造用ステッパーレンズ向けの硝酸カルシウムの出荷再開を織り込んでいる。また、気相法マグネシア、モスハイジについても、販売拡大を見込んでいる。

環境用途では、被災地の下水処理施設の破損による悪臭対策用に消臭効果のあるマグネシア関連製品、ならびに被災地の消毒用、農地の塩害対策向けカルシア関連製品の営業強化を行う。ファイン事業では、今期中の上市を目指し、顧客メーカーとLED用青色蛍光体の共同開発を進めている。また、大容量・高速の次世代メモリー向けに、酸化マグネシウムのターゲット材を上市しているが、今後1-2年をかけて拡販を図っていく。

このメモは投資判断の参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。このメモに記載されている内容は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性・完全性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容・意見は当該説明会時、ならびに/あるいは取材時における判断であり、今後、事前の連絡なしに変更されることもあります。投資に際しての最終決定は投資家の皆さまご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。

●【表4】2012年3月期 セグメント別主要製品販売予想

| (百万円) | 11/3期 | | 12/3期(予想) | | 前期比 | |
|-------------------|---------------|--------------|---------------|--------------|-------------|--------|
| | | 構成比 | | 構成比 | 増減額 | 増減率 |
| マグネシア事業 | 15,638 | 41.6% | 15,400 | 36.2% | -238 | -1.5% |
| マグネシアクリンカー | 7,667 | 55.2% | 7,368 | 47.1% | -299 | -3.9% |
| 水酸化マグネシウム | 7,354 | 53.0% | 7,252 | 46.4% | -102 | -1.4% |
| その他 | 617 | 4.4% | 780 | 5.0% | 163 | 26.4% |
| カルシア事業 | 22,741 | 60.5% | 23,700 | 55.7% | 959 | 4.2% |
| 生石灰 | 15,339 | 77.2% | 16,109 | 70.8% | 770 | 5.0% |
| 消石灰 | 2,941 | 14.8% | 3,031 | 13.3% | 90 | 3.1% |
| タンカル | 995 | 5.0% | 1,062 | 4.7% | 67 | 6.7% |
| 土質固化材 | 944 | 4.8% | 1,015 | 4.5% | 71 | 7.5% |
| 製鋼用脱硫剤 | 530 | 2.7% | 470 | 2.1% | -60 | -11.3% |
| その他 | 1,827 | 9.2% | 1,853 | 8.1% | 26 | 1.4% |
| 東北鉄興社 | 165 | 0.8% | 160 | 0.7% | -5 | -3.0% |
| ファインその他事業 | 3,489 | 9.3% | 3,925 | 9.2% | 436 | 12.5% |
| CS(超高純度炭酸カルシウム)関連 | 659 | 1.8% | 809 | 1.9% | 150 | 22.8% |
| 気相法マグネシア | 1,161 | 3.1% | 1,224 | 2.9% | 63 | 5.4% |
| モスハイジ | 461 | 1.2% | 504 | 1.2% | 43 | 9.3% |
| その他 | 647 | 1.7% | 763 | 1.8% | 116 | 17.9% |
| 生活関連用品 | 561 | 1.5% | 625 | 1.5% | 64 | 11.4% |
| その他の事業(貨物) | 681 | 1.6% | 675 | 1.5% | -6 | -0.9% |

6

このメモは投資判断の参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。このメモに記載されている内容は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性・完全性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容・意見は当該説明会時、ならびに/あるいは取材時における判断であり、今後、事前の連絡なしに変更されることもあります。投資に際しての最終決定は投資家の皆さまご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。

ご参考
● 連結主要データと業績の推移

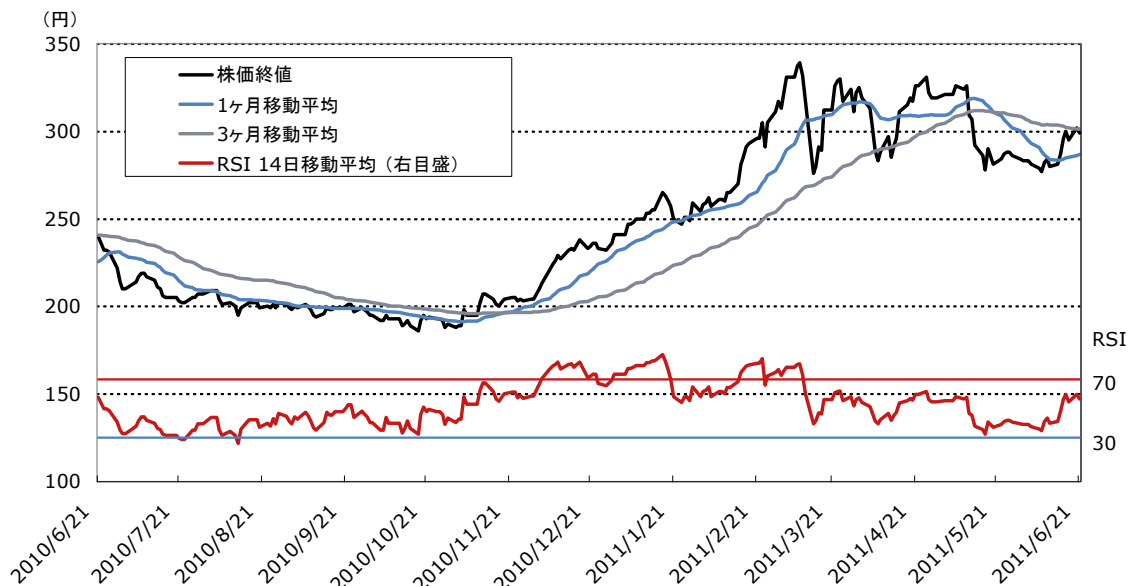
| 連結主要データ | | |
|------------|-----------|------------|
| 発行済み株式数(株) | 2011.3月 | 80,948,148 |
| うち自己株式数(株) | 2011.3月 | 51,973 |
| 時価総額(百万円) | 2011.6.21 | 24,203 |
| 1株当純資産(円) | 2011.3月 | 336.59 |
| ROE(%) | 2011.3月 | 6.3 |
| ROA(%) | 2011.3月 | 4.1 |
| PER(倍) | 予2012.3月 | 16.9 |
| PCFR(倍) | 2011.3月 | 6.3 |
| PBR(倍) | 2011.3月 | 0.9 |
| 株価(円) | 2011.6.21 | 299 |
| 単元株数(株) | 2011.6.21 | 1,000 |
| 日々平均出来高(株) | 2011.6.21 | 94,367 |

| 連結主要データ | | |
|------------------|---------|--------|
| 総資産(百万円) | 2011.3月 | 41,765 |
| 自己資本(百万円) | 2011.3月 | 27,228 |
| 有利子負債(百万円) | 2011.3月 | 2,492 |
| 自己資本比率(%) | 2011.3月 | 65.2 |
| 有利子負債比率(%) | 2011.3月 | 9.2 |
| フリーキャッシュフロー(百万円) | 2011.3月 | 2,043 |

注: ROE=当期純利益÷期首と期末の自己資本の平均
 ROA=当期純利益÷期首と期末の総資産の平均
 PCFR=時価総額/(当期純利益+減価償却費)
 日々平均出来高=過去1年間の平均
 有利子負債比率=有利子負債÷自己資本
 フリーキャッシュフロー(FCF)=営業CF+投資CF

| 連結 (百万円) | 売上高 | 営業利益 | 経常利益 | 当期純利益 | 1株益(円) | 1株配(円) |
|-------------|--------|-------|-------|-------|--------|--------|
| 2008年3月期 | 42,470 | 2,395 | 2,441 | 1,422 | 17.57 | 10.00 |
| 2009年3月期 | 45,042 | 2,413 | 2,285 | 1,171 | 14.48 | 7.00 |
| 2010年3月期 | 37,577 | 1,859 | 1,956 | 1,084 | 13.41 | 5.00 |
| 2011年3月期 | 42,550 | 3,238 | 3,270 | 1,667 | 20.62 | 8.00 |
| 予2012年3月期上期 | 21,300 | 1,040 | 1,040 | 620 | 7.66 | - |
| 予2012年3月期 | 43,700 | 2,550 | 2,540 | 1,430 | 17.68 | 8.00 |

注: 2012年3月期予想は、2011年5月10日発表の会社予想

● 株価チャートとRSI


出所: BloombergのデータをもとにTrias作成

注: RSI(Relative Strength Index)とは株価の「買われ過ぎ」や「売られ過ぎ」を指数で表したものの一般的にRSIが70を超えると高値圏、30以下では安値圏に位置していると言われている

RSI= N日間の値上がり幅平均÷(N日間の値上がり幅平均+N日間の値下がり幅平均)×100

このメモは投資判断の参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。このメモに記載されている内容は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性・完全性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容・意見は当該説明会時、ならびに/あるいは取材時における判断であり、今後、事前の連絡なしに変更されることもあります。投資に際しての最終決定は投資家の皆さまご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。